

第10回 大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会（摘録）

【日時】 平成25年2月13日（水） 15:00～16:30

【場所】 302号会議室

【出席者】 検討委員会委員 16人（欠席4人）

教育委員会事務局 6人

市・安心安全課 1人（オブザーバー出席）

【傍聴者】 5人

【取材】 0人

【次第】 司会：学校再編推進室主査

1 開会

2 議題

発言者	発言内容
委員長	保護者や地域の方、市民の方々からいろいろな意見をいただき、前回の検討委員会で協議しました。本日は中間報告の修正案についても検討を進めたいと思います。その前に安心安全課から、大牟田市の洪水ハザードマップを説明いただき、大牟田の状況について概要を把握したいと思います。
安心安全課	<p>大牟田市洪水ハザードマップを説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成21年度に大牟田市の洪水を想定し策定したマップで、福岡県が作成した浸水想定区域図等を参考に水防法の規定にある堂面川、諏訪川の2河川の洪水における浸水想定区域を使い作られたもの。 堤防や土手の決壊で起こる洪水（外水はん濫）を想定したもので、支流の水が本流へ排水できなくなっておこる洪水（内水はん濫）は入っていない。 大牟田の場合は土地が低い所、特に有明海は満潮と重なると水がはけ切れずに溜まって浸水する状況が起きやすい。しかしハザードマップに関してはその想定ではなく、川の堤防が決壊してできた浸水を想定しており、堂面川と諏訪川の浸水する水の深さに応じて色分けしている。大牟田川については県では浸水想定区域を出されていないが、諏訪川、堂面川ともに標高8m くらいまで浸水することが分かっているので、同様に8m 区域については浸水する可能性があるということで、注意喚起のために付け加えている。想定される雨量は、堂面川は1日の雨量が290mm、諏訪川は350mmで雨量計算され、その上で堤防が決壊した場合を想定されている。 参考までに、平成2年に大牟田の北部で特に被害のあったときの1日の雨量が299mm、昨年の九州北部豪雨で被害のあった八女市の黒木町で486mm、柳川市で281mmと記録されている。 行政では指定避難所と自主避難所に分けをしている。指定避難所は、災害が発生して市で避難勧告や避難指示を発令した場合に開設する避難所で、市内の小中学校と地区公民館、市民体育館、リフレス大牟田の43箇所。自主避難所は、台風などの接近に伴って避難勧告までとはいかないが、自主的に避難する場所の提供ということで25箇所設けている。 （参考）現在福岡県が土砂災害警戒区域の指定に向けて作業をされてお

	り、市内で約300箇所指定する予定。1月に県が説明会を開催し、市で意見の取りまとめ中。
委員長	何か質問等はありませんか。
全委員	質問なし。
委員長	それでは、ハザードマップは検討時の資料としたいと思います。 (ここで安心安全課職員は退席)

(1) 第9回大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会の摘録について

修正等はなく了承。

(※ 情報公開センター及び市ホームページでの公表資料とする。)

(2) 配付資料の説明

発言者	発言内容
委員長	<p>前回の会議では、中間報告に対する意見を聴いて、学校規模・学校配置に関する不安、その地域の文化、地域の成り立ちなどの意見交換をしながら、いくつかの修正案を作ってみました。事務局で修正案を3つ作成されていますので、まず修正案を説明していただき、その後修正案について検討し、併せて中間報告と修正案との関係で方針を出していくことで進めたいと思います。</p> <p>まず、事務局から修正案の説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料2)の中間報告の修正案を説明。 (P21資料の訂正) 最長の通学距離 <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告 三池を今山に、経路距離の3.8kmを4.0kmに修正 ・修正案①、② 小学校区の歴木を高取に修正 ・スクールバスの運行について補足説明 路線バスの有無、運賃の有無、運行主体、利用者などにより許可や届出が必要かどうか個別に判断される。現在大牟田市では、特別支援学校で市が保有している車椅子用のリフトバスやマイクロバスのスクールバスを運行している。市が運行主体となって無償でスクールバスを運行する場合は、以前は国土交通省大臣への届出が必要だったが、現在は規制緩和により届出が不要となっている。ただし、路線バスがある場合はできるだけ路線バスの利用が望ましく、また、運行業務を業者に委託する場合は、事業用バスに対する規制がかかる。

(3) 中間報告に対する意見につて、検討委員会の考え方の整理

発言者	発言内容
委員長	平成36年度の学級数を、40人と35人で出してあります。35人以下学級について、事務局から文部科学省の考え方の説明をお願いします。
事務局	結論は、35人以下学級については当分の間据え置くということで国の予算が組まれるようです。

	<p>国は、昨年8月には今後5年間で中学校3年生まで35人以下学級にする計画を出されました。しかし政権交代により、来年度予算の概算要求では現状の維持とする見直しがなされ、教員の配置についても目的使用の定数の扱いとなりましたので、この先10年間は35人以下学級の実現を考慮する必要はないような状況です。</p>
<p>委員長</p>	<p>35人学級は、国の財政上の問題で先延ばしになったようです。</p> <p>検討委員会ではいろんな視点から案を作って検討し、1つに絞って中間報告をしました。前回の会議では、中間報告に対し保護者、地域、市民の方々からいただいた様々な意見を基に論議し、学校はより良い環境の中で子どもたちがすくすくと育つ学ぶ場である。また、学校は地域コミュニティの中心になっているというコミュニティスクールの性格があるといった諸々の視点から協議をしました。本日は、前回の協議を踏まえた修正案が作られています。</p> <p>修正案と中間報告を検討して、最終的に決めなければなりません。3つの修正案で意見があると思いますので、自由に意見を出していただきながら、話の柱を決めたいと思います。</p> <p>まず、修正案の①をご覧ください。これは大正小学校の保護者の方々から白光よりも右京の方が近いのではないかという意見が複数出ていましたので、右京中になっています。また、白川小学校が下白川町1丁目、また国道で区切った場合に、公民館組織の分断になるということがありましたので、全ての小学校が分かれることなく中学校に進学することがベストだと考えると、大正が減った白光に白川を持っていったらどうだろうかということで作られているのではないかと思います。</p> <p>ただ、この中で問題なのは、手鎌小学校の橋中学校に近いところの部分は、地域の方から近い学校に行かせて欲しいという意見があったと思います。文科省の中央教育審議会が平成9年に答申した中で、学校再編に伴う校区の弾力化というのが出ていますので、それを加味してどうするかということがあります。ただ、前回の会議でも出たように、校区の一部をどうするかについては通学区域審議会という組織で審議するので、検討委員会には決める権限はありません。</p> <p>例えば、自転車通学も同じです。遠いから自転車通学を認めるか否かということは、検討委員会が決める問題ではなく、学校が決めます。通学路の安全を検討委員会では配慮する必要がありますが、歩道と自転車道を別にするという権限は検討委員会にはありません。それは、学校再編協議会で要望をすれば、全庁的な取組みを行うということを前回の会議で協議しましたので、そういう視点で修正案①を見ていただきたいと思います。</p> <p>田隈中学校が施設も良い。いろんな面で優れている施設をどうして閉校するのかという意見が出ましたので、修正案①では田隈中学校と橋中学校の再編はないということになります。その代わり歴木が閉校になったために、三池と高取が田隈に来ます。白川と平原は中間報告では歴木でしたが、白川校区の問題から白光となり、大正は再編後の右京となっています。</p> <p>修正案②では大正はそのまま白光中学校です。白川と平原もそのまま再編をして白光になりますが、白光は40人学級で22学級と大規模校になります。文科省が言う超マンモス校は31学級以上なので、22学級は超マンモス校ではなく、生徒数は約800人です。昔は、米生も歴木も田隈もほとんどの学校が1,000人を超えていました。体育館は生徒数によって面積が決まっているので、田隈も甘木も立派な体育館ができています。白光の22学級が多いのか、田隈の問題も含めて考えていただきたいと思</p>

	<p>います。</p> <p>修正案③は、上内の子どもが甘木に行く案です。橋でも遠いのにさらに遠くなり、甘木は山の上にあります。手鎌の子どもたちは今までどおり甘木です。</p> <p>3つの修正案にはそれぞれ一長一短があります。そこで皆さんのご意見をお伺いして、ある程度絞っていきたいと思います。そして中間報告と比較して、どちらが子どもの教育環境として望ましいか、結論を出すことができればと思っていますので、自由にご意見をお願いします。</p>
委員	<p>適正規模・適正配置で見ると、まず変わらないのは米生です。問題なのは田隈をどうするかということ、それから大正小学校は右京の方が近いのではないかとということ、中友と大正の問題があるのではないかとということです。改めて見ると、中間報告の微調整ぐらいで大正は右京に行くのではないかと、歴木の中の平原・白川の一部がどうか、通学区域の問題に若干触れてくると思います。平成36年度になったときに、この検討委員会の中では歴木にあるべき地域ではないかと審議した中で、中間報告はそんなに間違っていなかったのではないかと認識しています。</p>
委員	<p>中間報告に対する意見は、防災面で田隈中を残したほうが良いというものでしたが、ハザードマップを見る限り、平原小を白川小にまとめて白光中になる場合、平原の歴木中付近が、どこに指定避難所を持っていくのだろうかという問題も逆に出て来るのではないかと思います。地図で見ると田隈中付近には銀水小、羽山台小、三池地区公民館まであります。平原地区で歴木中をなくした場合、高取小から白川小、三池地区公民館、羽山台小まで含めたご老人たちはどう移動するのだろうか。田隈中付近の老人を考えるのであれば、歴木中付近の老人のことも考えるべきではないでしょうか。避難所まで考えると、田隈中を残すよりも歴木中を残したほうが良いのではないかと思います。</p>
委員長	<p>防災上から見たら、田隈も歴木もどちらもあまり変わらないようなので、歴木にあっても良いのではないかとのご意見ですね。</p>
委員	<p>適正規模ということでは、大規模校をつくるよりも中規模でまとめて、教育的なことでも全市のことを考えた方が良いのではないかと思います。体育館など学校の施設面は後から徐々に改修したり、崖にしても補修すればよい話で、基本的に子どものことを中心に考えていただいた方が良いのではないかと思います。</p>
委員長	<p>大規模校と小規模校の良い点、悪い点については論議しましたね。子どもの教育環境を考えた場合、この検討委員会としてはやはり学校の規模を考えなければならないだろうということで、小学校は1学年2クラス以上で全校12学級以上、中学校は1学年に4学級以上で全校12学級以上は必要として中間報告を出しました。良い点、悪い点を考えて検討したということを含めて学校の規模の問題をおっしゃったと思います。</p>
委員	<p>学校の適正規模と適正な通学距離などについての小中学校の先生、保護者へのアンケート結果などにに基づき、中学校はこのくらいの規模が必要ではないかということで議論を重ねてきた中で、最終的に5校で落ち着きました。種々の意見により修正案を出されていますが、基本的には中間報告</p>

	<p>が良いのではないかと考えています。修正案の①、②は巨大校や12学級未満の学校が出てきますので、修正案では③が1番適当ではないかと思えます。中間報告を出すに当たり、課題の整理をしっかりと積み上げてきたのではないかと考えます。なおかつ説明会や保護者、パブコメの意見により修正案を出して、その中では③ではどうかと考えていますが、基本的には中間報告が間違っているとは思っていません。</p>
委員長	<p>検討委員会で学校規模と学校配置を検討して、よりベターだという結論を出し再編を考えたものが中間報告です。住民の方々の立場から言うと、やはり自分の学校、地域コミュニティということでもたくさんの意見が出ました。どちらを採るかというのは大変難しい問題です。地域の理解がなくては、再編は進みません。しかし、子どもたちの将来を考えると、地域の意見だけを聴いても、より良い教育環境ができるというものでもありません。そのような立場で今のご意見が出たと思えます。</p>
委員	<p>パブリックコメントを取入れていくということは大事だと思います。中間報告の案は合理的な数だと思います。市民の意見を聴いて出された修正案に関しては若干勇み足かもしれませんが、今後も修正は常に繰り返していく必要があると思えます。</p> <p>大きな柱となる学校の規模と通学距離ですが、クラスの人数に関しては中間報告や修正案の形でいって、あとは教員の腕次第だと思います。通学距離に関しては、距離を縮めるのが理想ですが、極論から言えば家の前に学校があるのが1番良いというのは良くないと思えます。ある程度の通学距離を毎日通っていくというのが大事な勉強のひとつであって、ある程度の通学距離が必要だと思います。しかし通学距離に関しては、クラスの人数を決めていくのとはかなり違う性格の問題だと思います。クラスには担任の先生がいますが、通学距離はいろんな関係の人達に絡んでいる問題があると思えます。例えば、市からスクールバスを出すか出さないかという問題にしても、保護者が車で送迎するかどうか、それぞれの立場が一緒になって財政や家庭環境の問題などがあり、通学距離の調整に関してはかなり複雑な問題が絡んでいると思えます。</p> <p>では、今後検討委員会としてどうするかということですが、教育委員会が主体で動いていくものに関しては、教育委員会側が責任を持って、毎日通学する小中学生が「明日も元気に学校に行きたい」とか、「今日は楽しいことがあった」というようなことを家に帰って言えるような教育現場を確保するというのが1番大事だと思います。いろんな要素が絡んでいる全ての問題に関しては、その当たりが限界なのではないかと思えます。</p>
委員長	<p>通学距離とクラスの人数は、今おっしゃったようにちょっと違いますね。クラスの人数は教師の力量がとても重要です。通学距離は、学校の目の前でも、遠すぎてもいけない。ただ、学校が良くなれば人が集まるということをおっしゃっているのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>適正規模・適正配置で、修正案の①と②は、橘中が平成36年度には9クラスに減るので、修正案の③の方がよいのではないかと考えます。しかし、そうすると上内から手鎌まで校区が広がってしまいますので、どうしても中間報告に目が行ってしまいます。中学校で部活をする上では、修正案の③が良いのではないかと考えます。</p>

委員長	確かに、修正案の③はバランスが取れていますね。 橋中学校から甘木中学校までの距離はどのくらいですか。
委員	中間報告の橋までの7.7kmから、修正案では甘木まで8.8kmですので、1kmくらいではないでしょうか。
委員長	上内の四ケの子ども達が橋まで自転車通学でとても努力をしているのに、甘木まではさらに遠くなり、最後に山に登ることを考えると、修正案③は規模の確保はできますが、通学距離の面で課題があり、各修正案にはそれぞれ一長一短あります。
委員	統合するときの手順を考えてみました。例えば甘木中であれば手鎌小を白光中に、倉永小を橋中に分けるという1つの中学校区を分離する再編がいくつもあつたら、一斉に再編しなければなりません。手鎌を先に白光に変更すると甘木は半分になります。ある程度整理がついて残り半分が橋に行くということはなかなかできないと思います。基本的にはなるべく今の中学校を2つに分けない方がよいと思います。 それから子ども達の人数の関係で、修正案の③は平原小学校を田隈か歴木にすると歴木を分割する必要がない。また、銀水小の一部の宮部や尾尻の辺りをどうするか課題として持っておくと、人数的には良くなると思います。 ただ、甘木・橋校区は非常に大きくなるのが1つの課題だと思います。中学校は2つに分けて再編するよりも、そのまま再編の方が実際の作業としてはやりやすいのではないかと考えます。
委員長	クロスしているので、一斉にしか再編できませんね。
委員	子どもたちだけをそれぞれの学校に分けてしまえばよいというわけではなく、教育環境、校舎の整備、再編校に付いて行く先生のことがあります。先生たちも4月1日新しい学校に一斉に行きなさいということになると、学校も対応できないのではないのでしょうか。現実的に考えると、あまり中学校も現在の校区を分けない方がよいと思います。そうすると、修正案③の平原を田隈・歴木に入れてはどうでしょうか。
委員長	以前の会議で〇〇委員から、再編の日程表という発言があっており、今の発言とも関係がありますね。ある年に全部一斉に再編するのではなく、事業の中で地域の方のご意見を聴きながら進めるという再編の日程表が必要ですが、順番はなかなか難しいところがあります。
委員	適正規模という面では修正案の③が良いと思いましたが、甘木中まで8.8kmと通学距離が長いので、規模的には、中間報告が1番良いのではないかという印象を持っています。ただし、大正を右京にという意見もあつたので、中間報告の一部訂正として大正を右京に入れる形にしてはどうかと思います。
委員長	大正小学校を右京に、それから修正案よりも中間報告が良いのではないかということです。
委員	前回委員長がおっしゃった、より良い教育環境を作っていくという軸足

	<p>を私は思っています。地域振興等は検討委員会の範囲ではなく、行政の方にお任せする事になるのだらうと思ひます。より良い教育環境を作っていくということでは、子ども達になかなか社会性が身に付いていない状況の中では、少人数だとますます社会性が身に付いていかないだらうということからの検討のスタートだったのだらうと思ひています。一斉に再編することは至難の業だということは確認し、覚悟しながら適正規模・適正配置の検討が進んできたのであらうと思ひています。なるべく細切れにせず、最小限にとどめたところでの再編を配慮しなければならないと思ひます。学校現場にいと、やはりある程度的人数は欲しいです。そうすると先生方もある程度的人数が配置されるし、ある程度施設も造ることができます。</p> <p>人数を考えると、中間報告あるいは修正案③辺りが1番子ども達にとってよりよい環境の中のひとつになるのだらうと思ひています。</p> <p>しかしながら修正案③で甘木・橘校区がとて広くなるということについては課題ですので、行政にお任せしてスクールバスや安全面の確保を考えなければならないと思ひています。</p>
委員長	<p>子ども達が社会性、生きる力を身につけるためには、ある程度的人数が必要ということ。そのため距離的な問題はあつたが、中間報告又は修正案③が良いのではないかとこの発言でした。</p>
委員	<p>修正案②では適正規模に満たない学校が生じるので、あまり良くないと思ひます。人数、環境の面からは、一斉に再編するのは難しいかもしれないが、中間報告にしても一斉に取り組まねばならないことは多くあつたので、難しい課題ではあつたけれども覚悟して取組まなければならないと感じています。</p> <p>修正案のように白川・平原が一緒になって白光中という分け方もあるのだなと思ひました。</p> <p>コミュニティ面は、市で施設の活用を考えていけば良いと思ひます。現段階では、中間報告か修正案の③が良いと思ひます。</p>
委員長	<p>中間報告又は修正案③ではないかというご意見です。</p>
委員	<p>修正案の③が良いと思ひます。その中で大正小学校は右京に近いしまとまっているし、右京にした方がバランス的にも良くなるのではないかとこの思ひます。</p> <p>それから田隈の中の銀水小学校は、尾尻辺りは川よりも北側になります。ここは現状では橘中のように、③案で田隈に調整するのは課題があります。また、③案では橘は甘木に変更になっていますが、四ヶからは8.8kmありますので、橘に戻した方が良いのではないかとこの思ひます。</p>
委員長	<p>橘の校舎は高台にあり、安心安全課から防災の説明を聞いて、私は橘がそんなに危険な状態とは受け止めませんでした。橘の現状施設を使う場合にも、体育館を建替えてくださいという権限は検討委員会にはないので、行政で検討していただかないといけなんでしょうね。甘木よりも橘の方が通学面で良いとおっしゃっています。</p>
委員	<p>全体的に見ると、すっきりしているのは③案だと思ひました。どうしても距離的なものが問題になってくるので、甘木ではなく橘にできないかと</p>

	<p>もと思いますが、小学校の校区などを考えると、③案が良いと思います。地域の方の意見も大切にしながら、田隈を残す修正案になっていますが、歴木の方たちを思うと、また何か意見があるのではないかと思います。</p> <p>検討委員会ではきちんとした形で進めて、できる限り地域の方たちの思いに添えるようにしていった方が、スムーズに行くのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>修正案を見て適正規模を考えると、③案ではないかと思いますが、上内の子どもが山を越えて毎日通わなければならないことを考えると、学校に行きたいと思うばかりではないだろうと思います。</p> <p>中間報告と修正案③をみながら、あるいは保護者の大正の校区を右京にという意見を取り入れながら、中間報告を土台にした修正をしていく方が落ち着くのではないかと思います。</p>
委員	<p>中間報告と修正案の大きな違いは、田隈中を残すか、歴木中を残すかということだと思います。修正案は田隈中を残す案になっていて、納得するところもあります。修正案の②案は市全体の生徒数の3分の1以上が白光中1校に集中しているので、良くないのではないのでしょうか。修正案③は、300人に満たない米生中以外は、400人から600人になっています。</p> <p>併せて大正校区をどうするか、あるいは上内小学校が甘木中学校まで遠いということです。上内校区の中でどの辺りにお住まいなのかはよく分かりませんが、平坦な道ではありませんので、修正案の修正も考える必要があるのではないかと思います。</p> <p>それから、修正案③の最長の通学距離について、田隈中校区が銀水小校区の宮部4.8kmというのは違っているのではないかと思います。高取校区の方が田隈からは遠いのではないのでしょうか。見直しをお願いします。</p>
委員長	<p>5分間休憩して、皆さんから出た意見をまとめて方向性のたたき台を出しますので、それについて皆さんで論議していただき、次回にまとめていきます。</p> <p style="text-align: center;">【5分休憩】</p>
委員長	<p>前半の話し合いを次のように把握してよいのでしょうか。</p> <p>中間報告は、ベストではなくてもベターである。しかし市民の意見を聴くと、修正案の③についても一部微調整の中に考える必要があるのではないか。</p> <p>そこで、中間報告と修正案の③を見比べていただいて、これに意見が多かった大正小学校を右京に持っていくと良いのではないか。その場合、右京の施設設備等がありますが、それは検討委員会の答申に基づいて教育委員会で配慮していただく問題です。</p> <p>中間報告と修正案③を比べてください。甘木中学校と橘中学校をどうするかです。今までの意見では橘中学校にするという意見が多かったと思います。修正案の③は、中間報告の方になるような感じがします。もうひとつは、手鎌小学校は修正案③では甘木中学校になっていますが、これは中間報告どおり白光にしてはどうかということではないのでしょうか。</p> <p>そうすると、大正を右京に持ってくる。ここが大きな一部修正です。</p> <p>また、田隈は再編校にはせず歴木にするという意見が多くありました。</p> <p>次回の会議の焦点を作りたいと思います。相反する意見でも結構です。自由にご意見を出してください。</p>

全委員	特に意見なし。
-----	---------

(4) 議事のまとめ

発言者	発言内容
委員長	<p>それでは、確認をしておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋と甘木中学校は、中間報告のとおり橋で案を作成する。 ・手鎌小学校は、中間報告のとおり白光中学校とする。 ・大正小学校は、再編後の右京中学校とする。 ・白川と平原は、再編して白川小学校というのが中間報告。下白川町1丁目と国道の問題は考えず、中学校は歴木中学校。 ・米生と勝立は、中間報告どおりとする。 <p>以上で、次回に修正を加えて出していただき、もう1回いろんな視点から検討していきます。</p> <p>また、市民の方々から出されたパブリックコメントの回答を検討委員会がするようになっていきます。パブリックコメントの意見を大きく分けると10項目ぐらいの意見があったと思いますので、それも含めて検討して話をまとめたいと思います。</p> <p>他に何かございませんか。</p>
委員	<p>今おっしゃった案は修正案の④ということで捉えてよいのでしょうか。微修正となると、大正小学校が右京中になるだけの微修正かと思っています。新たに修正案が出てくるのでしょうか。</p>
委員長	<p>中間報告に修正案の③を加味した案を出してもらい、再度検討します。です。</p>
全委員	了承。

(5) その他

発言者	発言内容
委員長	事務局から次回の日程も含めてお願いします。
事務局	<p>今回は中間報告、修正案の③と、もう1つ修正案を作り、3つの案で検討いただきます。</p> <p>次回の日程は3月1日（金）の午後3時から、場所は302会議室で予定させていただきます。後日、開催通知、資料を送付させていただきます。</p> <p>※田隈中までの最長の通学距離が4.8kmは遠いのではないかという意見について、校区の端の家からの経路距離の計測であることを説明。</p>
全委員	了承。

3 閉会